

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準偏差値49.4

## 3. 指標にむけての取組

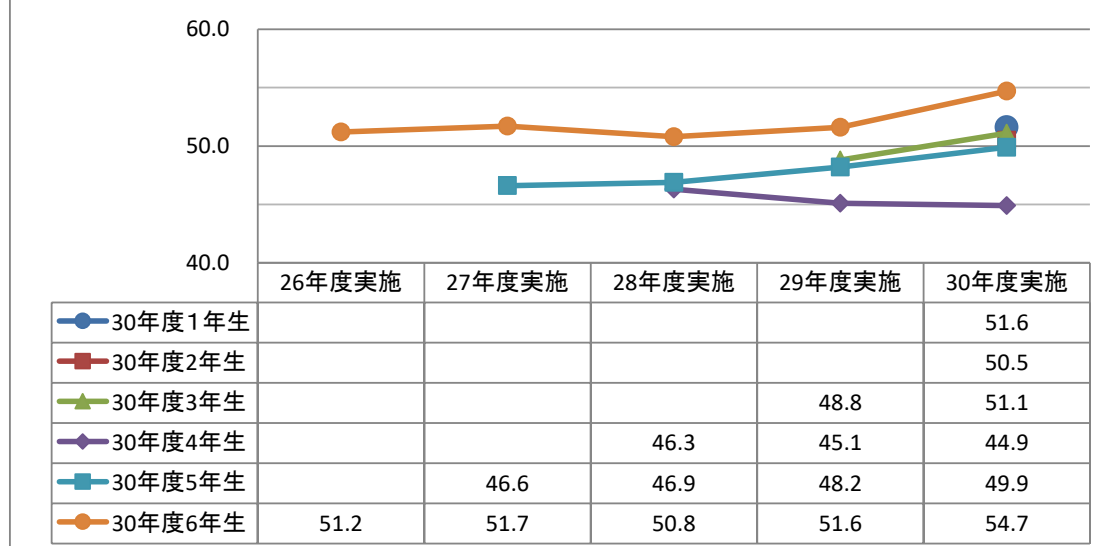
- 指導方法を工夫改善していく。(習熟度別学習など。)
- 日常的な授業改善を進める。
- 家庭学習の充実を図る。
- PDCAサイクルを短期で機能させる。(単元末テストの前に習熟を図る。実施後に補充学習を行う。)

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
本校(A)	49.8	48.7	48.6	48.4	50.3
嘉麻市(B)	50.0	50.8	50.7	51.5	51.4
(A)－(B)	-0.2	-2.1	-2.1	-3.1	-1.1
標準偏差値との差 (A)－(50)	-0.2	-1.3	-1.4	-1.6	0.3

### 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

成果指標である標準偏差値49.4を超えることができた。

- 重要単元において、指導方法工夫改善教員が指導方法を工夫し、習熟度別分割授業を行ったことで、基礎・基本が定着していない児童に対する補足的な学習を充実させることができた。
- 研究テーマに基づく授業を全学級が公開し、「問いづくり・思考づくり・価値づくり」のある授業の日常化に向けて取り組むことができた。
- 家庭学習や学級裁量の時間などを使って意図的・計画的にアシストシートを活用することができた。
- 単元テスト後に、複数体制で到達度プリントに取り組み、個別指導を充実させることができた。

## 6. 各学校における今後の取組

- 平成30年度のNRT学力検査の課題を基に重要単元を設定し、指導方法工夫改善教員による習熟度別分割授業を充実させる。
- 主題研究に基づく研修において理論と実践を深めることで、日常的な授業改善を進める。
- 基本的な生活習慣の確立と家庭学習・自学の習慣化に向けての取組を充実させる。
- PDCAサイクルを短期で機能させる。(単元末テスト実施前に習熟を図るとともに、実施後に補充学習を行う。)

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆授業研究による授業改善の取組を推進する。そのために、校内研修での授業観察指導及び研究推進員に対しての指導助言を実施する。また、学力向上推進員による講師及び若年層の教員を対象とした授業改善指導を継続的に実施する。
- ◆嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組の具体を提示する。